

仕事の内容を全員が理解すること、仕事の分担に片寄りがないこと、分担に無理がないようにすることなどであった。

班で役割分担を話し合わせ、担任が指導・助言をした。

⑤ ザリガニ発見カードを書かせる

ザリガニについて、新たな発見をしたとき絵と文で内容を記録させ、「発見カード」と呼んだ。

ザリガニとりに行ったときのこと (女子)

ザリガニさんは、水がきたないぬまにいますね。わたしははじめてわかったよ。

飼育しているときのこと (男子)

ザリガニくんは、へんなかっこうをします。ぼくはザリガニくんのひげをもってからひげをはなしたらちょっとおこったように見えました。

発見カードを書かせることによって、今までとは違う視点でザリガニを毎日観察してくれるのではないかという願いをもっていた。

その結果、児童は上述の例のようにザリガニについての様々な特徴を固定観念にとらわれない感覚でとらえており、B教諭の願いは達成された。



(ザリガニの特徴を観察する)

⑥ 生き物へのやさしさを教える

マイケルがくるしんでいるので「どうしたんだ」といってみて、ザリガニをつかんでみた

ら「ギューギュー」というこえがした。ないているんだな。それから何日かかくれがにはいって、そのままくるしんでいました。・・

S男たちの班のザリガニ「マイケル」のはさみがねじれ、取れてしまったのである。

あまり可愛がり過ぎ、頻繁に水を取り替え過ぎたり、いじり過ぎたりしたための出来事である。

「ギューギュー」という音を鳴き声にとらえたS男にB教諭は、「Sちゃんには、マイケルの苦しみがわかるんだね。それだけで、マイケルは救われるよ。」と言葉をかけ、S男のやさしさをほめている。

⑦ 友人を大切にすること

K子たちのザリガニのはさみが取れて死んでいた。K子が当番のときにはさみが取れたとK子がみんなに追求される。K子は反論できず、涙ぐんでしまう。

B教諭は、この出来事を児童同士でどこまで解決できるかじっと見つめていたが、解決は困難であることを知った。

「みんなは、Kちゃん一人を責めているけど、Kちゃんは当番としていじったけど、みんなも、可愛がっていじっていたでしょう。Kちゃんだけを責めるのは正しいのですか。」

この言葉で、K子を責めていた児童全員がK子に謝った。これに類する出来事はたくさんあったが、そのたびごとにB教諭は、ザリガニを可愛がること以上に友人を大切にしなければならないことを教えてきた。

(3) 変容

① 児童の変容

ザリガニの飼育をとおして、児童たちの生き物に対する見方や考え方に変化が見られるようになったのは2学期ころからである。

1学期はものめずらしさから、ただザリガニを可愛がること为中心であった。2学期に入るとザリガニに脱皮やけがなどが生じ、かなりの数が死んだりした。そのような出来事の中で、生命の尊厳さや痛みを知り、ザリガニが活着していることと